

高島市議会だより

2009・7・31 発行

高島市議会だより

No.20

発行 高島市議会議長 渡邊 近治 / 編集 議会広報特別委員会
〒520-1592 滋賀県高島市新旭町北畑56番地 TEL. 25-8140
高島市議会メールボックス gikai-giji@city.takashima.shiga.jp



産業建設常任委員会 交通基盤、公共土木施設および上下水道の整備、農林水産業、商工業、中小企業振興、観光の振興などの調査研究を担当する常任委員会。6月12日に、国道303号追分工区および金居原バイパス（木之本町）の現地視察が行われました。

もくじ

CONTENTS

- 委員会報告 2 ~ 4
- 一般質問 5 ~ 13
- 議決事項一覧表 14
- 議員表彰・傍聴案内・9月定例会のお知らせ ... 15
- 会派だより 16 ~ 17
- 市民の声・編集後記 18



No.20

市民の声

「瀕死」の農業をどうするのか？

安曇川町 Y. Kさん

高島市政の議場においては、常に地域の産業振興の課題としての農業振興策が真剣に議論されている。しかし、合併して5年、行政の役割と責任としての農業振興の抜本策が講じられているとは到底思えない。一時、声高に企業誘致や新産業育成策が言われていたが、何ら地域振興のための活力には成り得ていない。時流に流されることのない独自性発掘の施策について、もっと真剣に議論が交わされ、地についた提案の樹立を心より期待したい。

高島の基幹産業である農業が、今『瀕死』

の状態にあり、産業として持続可能性喪失の危機に直面している。その崖っぷちにある大変な時に、その課題に対する認識を欠いたまま、その場しのぎの振興策をいくら論じていても無意味に思える。市内の農地の6割が、2割の農家にゆだねられている実態をどう考えているのか。従来のコメ政策を厳しく振り返り、市独自の抜本策を打ち出して欲しい。

いま、国の農政が大きく見直されようとしている。高島市においても、誤りのない農政の方向を、行政の役割と責任において明確に打ち出す時と考える。

これって公平なの？

新旭町 Mさん

私は自営業の30代の主婦です。主人と育ち盛りの子ども2人の4人家族は、毎日を忙しく生活していますが、この不況で家計は大変です。

税金は昨年の所得が課税の対象となることから、売上の落ち込みが激しい中であってもしっかり支払わないといけないし、国民健康保険税も容赦なく高額課税されてきます。

不況と商業環境が大きく変化している中、小さな商いで収入が乏しい状態であっても

子どもへの手当は支給されません。そんなとき、母子家庭の家族を見ていると、生活苦などまったく見受けることができません。

なぜ？ と思うのは私だけでしょうか。百年に一度の経済不況だと声高にいくら言われても、母子家庭に対する保護費は変わりません。

これって本当に公平と言えるのですか？ 疑問に感じるのは私だけですか？



編集後記

先日うれしいお話を伺いました。
ご主人が急に足に激痛を訴えられ、高島病院に。検査の後、京都の病院に転送され、手術をされて、今リハビリに励んでおられるそうです。
「高島病院での緊急処置が的確だったことが、大きなダメージの後遺症を作らずにすんだ」と医師に告げられたそうで「高島病院の大切さを実感しました」とおっしゃっていました。
今、総選挙を前に、政府与党内からも「医療費削減は間違いだった。地域医療や介護充実へ取組む」と弁明しています。しかし、社会保障費抑制路線は継続のままです。
まもなく高島病院は、改築に向け着手します。
地域医療は、市民の命の砦、病院建設にも健全経営にも政治の力が必要です。
(福井)

